

改正前

第8章 計画の実現に向けて

1 計画の達成状況の評価

(1) 基本的な考え方

本計画では、「変わりゆく地域の暮らしとまちの姿に対応した持続可能な公共交通の構築」を基本方針として、2つの計画目標と10の事業を位置づけました。今後、本計画の基本方針に基づいて事業を推進する中で結果を定期的・定量的に評価するとともに、必要に応じて見直しを行う必要があります。

2つの計画目標と10の事業は相互に関連するため、計画の達成状況を評価する評価指標として、「市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数」を設定することとします。

また、国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助及びフィーダー補助）を活用し運行している、広益線、生活交通バス（玖西循環線）及び過疎地域乗合バス（叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）に対しては、個別の評価指標として、経常収支率、公的負担額及び市民一人当たりのバス年間利用回数（広益線は公共交通利用者数）を設定します。

(2) 評価指標と目標値

本計画の目標を実現するため、2021（令和 3）年度を基準とし計画期間の 2031（令和 13）年度に達成すべき目標値を、前項で設定した評価指標に基づき、次のとおり設定します。

表 9 評価指標と目標値

		評価指標：市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数		
		【基準値】 2021(R 3)年度時点	【中間目標値】 2026(R 8)年度時点	【最終目標値】 2031(R 13)年度時点
岩国・由宇 エリア	鉄道	29.0 回	29.1 回	29.1 回
	バス等	11.2 回	11.3 回	11.3 回
玖西エリア	鉄道	11.4 回	11.5 回	11.5 回
	バス等	3.4 回	3.5 回	3.5 回
玖北エリア	鉄道	17.4 回	17.5 回	17.5 回
	バス等	8.3 回	8.4 回	8.4 回

今後は更に人口減少が見込まれ、公共交通の利用者も減少すると予想されます。一方で、年間を通じて鉄道やバス等を利用していない市民の中にも、公共交通のサービスが改善されたら利用するという層も一定数存在することが市民アンケートで分かりました。本計画に位置づけた各施策の実施により、2031（R13）年度までに、この層の市民の1割が1年間に4回（2往復）利用するようになることを想定し、目標値として設定します。なお、目標値は、下記のとおりエリア別に把握・算出します。

改正後

第8章 計画の実現に向けて

1 計画の達成状況の評価

(1) 基本的な考え方

本計画では、「変わりゆく地域の暮らしとまちの姿に対応した持続可能な公共交通の構築」を基本方針として、2つの計画目標と10の事業を位置づけました。今後、本計画の基本方針に基づいて事業を推進する中で結果を定期的・定量的に評価するとともに、必要に応じて見直しを行う必要があります。

2つの計画目標と10の事業は相互に関連するため、計画の達成状況を評価する評価指標として、「市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数」を設定することとします。

また、国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助及びフィーダー補助）を活用し運行している、広益線、生活交通バス（玖西循環線）及び過疎地域乗合バス（叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）に対しては、個別の評価指標として、経常収支率、公的負担額及び市民一人当たりのバス年間利用回数（広益線は公共交通利用者数）を設定します。

(2) 評価指標と目標値

本計画の目標を実現するため、**各評価指標に基準値を設定し**、計画期間の 2031（令和 13）年度に達成すべき目標値を、前項で設定した評価指標に基づき、次のとおり設定します。

今後は更に人口減少が見込まれ、公共交通の利用者も減少すると予想されます。一方で、年間を**表 9 評価指標と目標値**

		評価指標：市民一人当たりの鉄道・バス等年間利用回数		
		【基準値】 2023(R5)年度時点	【中間目標値】 2026(R8)年度時点	【最終目標値】 2031(R13)年度時点
岩国・由宇 エリア	鉄道	33.2 回	33.5 回	33.5 回
	バス等	14.1 回	14.2 回	14.2 回
玖西エリア	鉄道	11.7 回	12.2 回	12.2 回
	バス等	3.5 回	3.7 回	3.7 回
玖北エリア	鉄道	19.1 回	19.4 回	19.4 回
	バス等	7.8 回	8.4 回	8.4 回

通じて鉄道やバス等を利用していない市民の中にも、公共交通のサービスが改善されたら利用するという層も一定数存在することが市民アンケートで分かりました。本計画に位置づけた各施策の実施により、2031（R13）年度までに、この層の市民の1割が1年間に4回（2往復）利用するようになることを想定し、目標値として設定します。なお、目標値は、下記のとおりエリア別に把握・算出します。

改 正 前							改 正 後						
指標③ 市民一人当たりのバス年間利用回数							指標③ 市民一人当たりのバス年間利用回数						
数値目標	生活交通バス（玖西循環線）	現 状 値	0.22 回	目 標 値	2026 年度 （中間目標値）	2031 年度 （最終目標値）	数値目標	生活交通バス（玖西循環線）	現 状 値	0.25 回	目 標 値	2026 年度 （中間目標値）	2031 年度 （最終目標値）
			0.23 回		0.23 回			0.26 回		0.26 回			
	過疎地域乗合バス （叶木線・二鹿線・持ヶ峠線）		0.84 回		0.85 回	0.85 回				0.85 回		0.85 回	
目標値設定 の考え方	人口減少下で、今後の利用者は減少すると予想されますが、地区住民や利用者へのアンケートなどを通じてニーズに合わせた運行を行うことで、市民一人当たりのバスの年間利用回数を増加させることを目標値とします。						目標値設定 の考え方	人口減少下で、今後の利用者は減少すると予想されますが、地区住民や利用者へのアンケートなどを通じてニーズに合わせた運行を行うことで、市民一人当たりのバスの年間利用回数を増加させることを目標値とします。					
・現状値は、各路線における令和 3 年度の利用者数を各地区人口で割ったもの。							・現状値は、各路線における令和 6 年度の利用者数を各地区人口で割ったもの。						